

日本保健医療社会学会ニューズレター (No.133) 2026/1/15

目次

1. 第52回大会について
2. 第52回大会演題申込等のご案内
3. 第2回理事会報告
4. 定例研究会の報告・告知（関東）
5. 定例研究会の報告・告知（関西）
6. 看護・ケア研究部会報告・告知
7. 渉外・国際交流活動の告知
8. 「保健医療社会学を学べる研究者」情報の募集
9. シンポジウム情報等のメール配信・学会ホームページ掲載希望について
10. 会員著作情報のメーリングリストでの配信（試行）について
11. 編集後記

1. 第52回大会について

日本保健医療社会学会第52回大会を、2026年6月13日（土）と14日（日）の両日、摂南大学寝屋川キャンパスで開催いたします。土曜日は理事会と評議員会以外は午後からの開催で、日曜日は午前1つと午後2つ部会枠を設定しました。一時保育も準備いたしますが、事前申込み制といたします。大会ホームページに記載のとおり、早めにお申し出いただけますと、サポートが容易になります。どうぞよろしくお願いいたします。

教育講演と大会長講演は「オンデマンド配信」ですが、シンポジウムは対面で開催します（この3つのプログラムについては、大会終了後、質疑応答部分を除いて、1ヶ月間程度のWEB配信を致します）。会場は、ラストワンマイルはバス利用ですが、新幹線駅（新大阪駅や京都駅）からも、空港（大阪国際空港）からも、1時間から1時間半の距離です。宿泊施設は、大阪市や京都市に多数あるほか、守口市や門真市などの北摂地区にも少しはあります。インバウンド需要で宿泊予約が取りにくくなる可能性があります。早めの予約をお願いします。

大会テーマは「ライフの多様性に関わった保健医療社会学をめざして——ビッグデータ／研究支援／市民科学」です。現代は人生100年時代であり、ライフ（生命・生活・人生）のありようは多様化しています。それならば、そのように多様化したライフにあわせた「保健医療社会学」を構想し、その構想にふさわしい形で「研究」及び「研究支援」を考えていくことをしてもよいのではないのでしょうか。また、ライフの多様化に社会制度や研究が追いついていないという状況もあるように思われます。この状況を乗り越える方策も一緒に考えて行ければと思います。

本大会では、例年通り、一般演題やRTD（ラウンド・テーブル・ディスカッション）を行うほか、以下の企画を実施します。

1. 大会長講演 (オンデマンド)

●演者：檜田美雄 (摂南大学、大会長)

●テーマ「ライフの多様性に開かれた保健医療社会学をめざして」

大会プレ企画として 2025年9月28日に実施した関西定例研究会 (第1回目) を踏まえて大会テーマそのものを論じます。

2. 教育講演 (オンデマンド)

●演者：伊藤美樹子 (滋賀医科大学、第52回大会実行委員会副委員長)

演題：「人生の最終段階を読み解く市民科学——ビッグデータと『看取り』の社会的想像力」
介護保険制度施行以降、在宅介護の支援は「社会的介護」や「負担軽減」といった政策的文脈のもとで推進されてきましたが、その評価は主観的・価値的基準に依拠してきました。一方で、人生の最終段階は、医療化・専門職化によって社会から切り離されつつあります。本講演では介護保険レセプトなどのビッグデータを用いることで、終末期を社会全体の課題として可視化し、「看取り」に内在する共助の価値を市民科学の課題として再考します。

3. シンポジウム (日曜日午後、事後 WEB 配信の予定)

●演者1：武川正吾 (東京大学名誉教授)

「ライフスタイル中立的な研究支援の意義 (仮題)」

●演者2：木下衆 (慶応義塾大学文学部准教授)

「多様なライフスタイルに対応した多様な研究スタイル (仮題)」

●コメンテーター1：藤澤陽介 (住友生命保険相互会社、早稲田大学大学院会計研究科客員教授) ※非会員

●コメンテーター2：伊藤美樹子 (滋賀医科大学、実行委員会副委員長)

テーマは大会テーマと同じです。コメンテーターに住友生命保険相互会社からデータサイエンティストの藤澤陽介氏を招きました。2時間しかありませんが、演者およびコメンテーターの力を借りて、多面的に論じて行きたいと思っております。

4. 大会開催校企画 RTD

●発題者1：藤澤陽介 (住友生命保険相互会社のデータサイエンスオフィサー)

「ビッグデータを活用した保健医療の実際を生命保険から考える (仮)」

●発題者2：巽真理子 (大阪公立大学)

「ライフの多様性を踏まえた研究支援の形を考える (仮)」

日曜日の午後の後半の枠に「大会開催校企画 RTD」を置きます。詳細は、4月末発送予定の『抄録集』をご覧ください。

第52回大会は、対面開催です。公式の懇親会は開催いたしません。Wi-Fi はゲストアカウントも準備する予定ですが、ID やパスワードは当日朝の発表になります。エディロームでの Wi-Fi 利用は、当日を待たずに準備ができます。できるだけ利用の練習をした上でご来場下さい。

一般演題、RTDの募集期間は2025年12月9日(金)から2026年1月16日(金)です。2月末までには採否の結果を公開いたします。参加申込みは、3月末までには可能になる見込みです。大会ホームページに詳細を發表します。

第52回日本保健医療社会学会大会ホームページ (<https://jshms-conference.jp/>)

(第52回大会長：樫田美雄 [摂南大学現代社会学部])

2. 第52回大会演題申込等のご案内

第52回日本保健医療社会学会大会は、2026年6月13日(土)・14日(日)の両日、摂南大学寝屋川キャンパスにて開催されます。「ライフの多様性に開かれた保健医療社会学をめざして——ビッグデータ／研究支援／市民科学」を全体テーマとしています。

先日の会員一斉メールにてお知らせした通り、第52回大会の演題等の申込が開始となりましたので、申込期間を併せてお知らせいたします。多くの皆さまのお申し込み、およびご参加をお待ちしております。

一般演題申込期間：2025年12月9日(火)～2026年1月16日(金) 23:59(受付厳守)

RTD申込期間：2025年12月9日(火)～2026年1月16日(金) 23:59(受付厳守)

演題等申し込みの詳細は以下の大会ホームページに記しておりますので、検討しておられる方々はこちらをご参照ください。

<https://jshms-conference.jp/>

会員の皆さまの積極的なご参加を心よりお待ちしております。

(前田理事：研究活動担当)

3. 第2回理事会報告

以下の通り、2025年度第2回理事会が開催されました。

日時：2025年12月19日(金) 13:00～14:45

会場：ZOOM会議

出席者：美馬会長、清水理事、海老田理事、野島理事、樫田理事、前田理事、松繁理事、細野理事、天田理事、黒田監事、蘭監事、事務局 平野(記 国際文献社)

欠席者：細田理事

1) 看護・ケア研究部会の報告(研活理事)

細野理事の代理で松繁理事より資料の通り、12月20日と3月14日に定例研究会を開催すること、来年役員選挙を行うことが報告された。

2) 第52回大会報告(第52回大会長)

樫田第52回大会長より資料の通り、メインシンポジウムについて報告があった。プログラムの一部を開催校企画RTDと名称変更して開催することとなった。

1月16日まで演題募集を行っているが、後日、メールでもリマインド配信を行うこととなった。抄録集用原稿ファイル受付について準備ができていなかったが、今年のGoogleフォームを引き継ぐこととした。

一時保育の受付は業者等の都合により受付は1ヶ月前とすることが承認された。

大会 HP の保存について、原則的には大会終了時点のものを保存していくこととし、情報として残したい部分は見え消しの方法で検討することとした。

大会1日目の10時から理事会を開催することが確認された。

3) 第53回大会について(第53回大会長)

美馬第53回大会長より、会場のルールにより現時点では確定できないため、日程は未定であること、会場は立命館大学の大阪いばらきキャンパスを候補としているが、使用できない場合は衣笠キャンパスとなることが報告された。

4) 編集委員会報告(編集理事)

海老田理事より資料の通り、36巻1号を9月初旬に発行し、誤植および委員の記載漏れがあったことから訂正とお詫びのメール配信を行ったとの報告があった。36巻2号は1月刊行予定で、1号のエラーデータを掲載することが伝えられた。

編集委員会特集号における非会員執筆者及び非会員査読者の謝礼支払可否について審議が行われ、大会講演者に10,000円で講演と執筆を依頼していることから、執筆料のみでその金額を超えることがないよう非会員執筆者への謝礼は10,000円とすることとした。非会員査読者については原則として学会員の査読とすべきだが、専門性の観点から非会員査読が必要となった場合に、査読謝礼を5,000円とすることとなった。今後、学会として謝金規程の作成を検討することとした。

5) 国際文献社への事務委託契約(編集含む)について(総務理事)

清水理事より資料の通り、次年度契約書・覚書の変更点について説明があり、承認された。編集業務委託契約書・覚書については変更がないことが伝えられた。

6) 2025年度 前期予算執行状況(総務理事)

清水理事より資料の通り、前期予算執行状況の説明があった。収入について会費納入率が10月末時点で69%であり、11月に督促請求を行い、2月に再度督促請求を行う予定であることが伝えられた。

支出については、原則、予算通りに執行されており、交通費は理事会、編集委員会ともにオンラインとなっているので発生していないこと、大会活動補助費に赤字補填を予算計上していたが、51回大会は黒字であったことから予算と決算額で差が生じていることが説明された。

7) 研究活動委員会報告(研活理事)

前田理事より資料の通り、第52回大会の準備を行っていること、関東定例研究会を11月、関西定例研究会を9月に開催したことが報告された。2月に開催予定の関西定例研究会について開催1ヶ月前と1週間前にメールでリマインド配信することとした。

8) 渉外・国際交流活動の報告(渉外・国際理事)

報告事項なし。

9) 園田賞選考委員会について(研活理事)

前田理事より資料の通り、前田理事を選考委員長とし、選考委員会が組織されたことが報告された。

10) 名誉会員推挙について (学会長・総務理事)

後日、メーリングリストで審議することとなった。

11) ニューズレター132号の発行予定 (広報理事)

天田理事より1月5日が原稿締切であることが伝えられ、1月12日頃発行予定であるとの報告があった。

12) 学会ホームページ更新の進捗報告 (総務理事)

清水理事より定例研究会等の資料をアップロードできるような機能が必要かどうか伝えられ、導入する報告で進めることとなった。

13) 入退会者の承認について (総務理事)

清水理事より資料の通り、入会者12名の承認依頼があり、全員承認された。退会1名、逝去2名の報告があった。名誉会員逝去の追悼文執筆については後日検討することとした。

14) その他

なし。

15) 次回の理事会日程

今回は3月頃開催とし、後日日程調整を行うこととした。

(清水理事：総務担当)

4. 定例研究会の報告・告知 (関東)

1) 関東定例研究会報告 2025年度第1回 (報告)

日時：2025年11月8日(土) 14:00~17:00

会場：立教大学池袋キャンパス11号館A301教室

書評対象書：齋藤公子 (立教大学) 『がん患者の集団になにができるか——肺がんの罹患経験の社会学』(現代書館、2024年)

評者：鈴木智之 (法政大学)

評者：志水洋人 (名古屋大学)

司会：前田泰樹 (立教大学)・細野知子 (日本赤十字看護大学)

2024年に現代書館から刊行された、齋藤公子氏の著書『がん患者の集団になにができるか——肺がんの罹患経験の社会学』の合評会として開催され、対象書の持つ射程について、活発な議論がなされた。評者として、文学社会学を専門としながら病いの語り研究をすすめられてきた鈴木智之氏と、病いの語り研究から近年では科学技術社会論へと関心を広げられた志水洋人氏にご登壇いただいた。鈴木氏からは、ライフストーリー研究を選択した理由、患者や著者である「私」の持つ個別性をどうとらえるか、どのような社会にするかという問いにどう答えるかについて、さらに踏み込んだ説明を求める質問がなされた。志水氏からは、患者が置かれている家族関係や就労環境について、セルフヘルプ・グループ論や社会運動論、患者・市民参画との接続について、他の病気へのインプリケーションについてなど、多岐にわたる論点があげられ、具体的な説明を引き出す質問がなされた。著者の齋藤氏は、一つひとつの論点に丁寧

に応答し、もともとライフストーリー研究として出発し、患者たちの活動に沿って社会や医療のあり方への問いが深められていったこと、患者たちの直面する課題がグループの外での活動を経ないと解決しないなら、それは社会運動としての性格を持たざるをえないこと、こうした問題は患者たちだけにとっての問題ではないという点において公共的なものであること、そしてこうした活動を書くとき「私」という視点を捨てることはできなかったことなどを説明された。総じて、本著作がさまざまな偶然性に依拠しながらも、このようにしか書かれることがなかった必然性が示されていたように思う。フロアの参加者からも、当事者性を持ちながら書くことの実際について、ステージⅣという状態の患者たちが何かを伝えようとするものの意義について、昨今の高額療養費制度をめぐる議論についてなど、多岐に渡る論点が挙げられ、議論が継続された。合評会には、非会員も含めて対面16名オンライン10名の計26名が参加し、病いの当事者の活動やケアの現場に近い方から若手の社会学・人類学の院生まで、幅広い参加がみられた。合評会は、対象書が参加者たちにとって強く訴えかける力を持つものであることを示すように、熱を帯びた議論とともに盛会のまま終了した。

2) 関東定例研究会報告 2025年度第2回 (告知)

第2回定例研究会は、看護・ケア研究部会第4回研究例会との共催となります。詳細は、看護・ケア研究部会報告をご確認ください。

(前田理事：研究活動担当)

5. 定例研究会の報告・告知 (関西)

1) 関西定例研究会報告 2025年度第1回 (報告)

日時：2025年9月28日(土) 13:30~17:00

会場：国労大阪会館3階(大会議室)

テーマ：研究支援のユニバーサルデザイン化を考える

演者1：巽真理子(大阪公立大学)

「大学での研究支援の『多様化』の現在——ダイバーシティといたながらの女性活躍支援」

演者2：檜田美雄(摂南大学)

「研究支援のユニバーサルデザイン化——ライフスタイル中立的な研究支援の未来像」

コメンテーター1：松繫卓哉(追手門学院大学)

コメンテーター2：吉田雄一郎(摂南大学 研究支援・社会連携センター)

司会：檜田美雄(摂南大学)

本企画は、2026年6月13日(土)・14日(日)に予定されている第52回日本保健医療社会学会大会(摂南大学大会)のプレ企画として開催された。

演者の両名だけでなく、コメンテーターの両名もそれぞれの立場からスライドを準備してきた上で、内容のある発表と討論が交わされた(本報告文末尾のグーグルドライブのURLで資料

ファイルの入手が可能)。フロアには、関西諸大学の研究支援部門（事務部門）の責任者も数人ご来場下さっており、多職種が一堂に集って多面的な議論を交わすことができた点はプレ企画として有意義であったといえよう。

異報告においては、まず、研究者支援では「ワーク・ライフ・バランス」ではなく、「ワーク（仕事）・ワーク（研究）・ライフ（生活）・バランス」のようにワークを2種類に分けた視点が必要であるという主張がなされ、注目された。すなわち、大学教員のような業務では、学生指導等への支援（ひとつめのワークへの支援）と自主的研修的研究への支援（ふたつめのワークへの支援）とを分けて考えないと、後者への支援が後回しになりやすく、支援がされればされるほど疲弊感が高まる可能性がある、という指摘があった。ついで、「女性問題は男性問題である」ということが語られた。研究支援の枠組を男性にも利用可能にした場合、しばしば、総利用数は、男性支援も女性支援に匹敵する水準に達してしまうが、そこで支援されている男性は、男性の中の少数派（介護・育児負担を担っている男性）であるため、一般的男性の層の影に隠れて、当該の男性の層が抱えている困難を見落とさないようにすることが重要であるという主張がなされた（制度があるから「俺も育児をしている」と男性教員でも手を挙げるができる、という実態があるのだ、と語られた）。

最後に、異報告では「短期的な業績増のための支援」よりも「研究者人生を持続可能なものにするための支援」こそが重要であり、様々な研究支援プログラムの資金が短期的な業績増を達成目標としてデザインされてしまうならば、本末転倒の結果になりかねないことへの危惧が語られた。

檜田報告では、人生100年時代において、研究者像が一種類のままでは無理であること。研究者像そのものを多様化するとともに、研究モデルを移行する部分に支援が必要であることが語られた。具体的には、所属研究者の研究キャリアに対して、研究者モデルを移行するためのサバティカルを提供するというような移行支援制度の新構想がなされてもよいのではないか、という提言がなされた。そこでは、キーワードとして「長期的インセンティブ」という語が提示され、「論文の本数とボーナスを連動させるような短期的インセンティブ」の提供を増やすことでは研究の多様化を図ることができず、多様性を増しつつある市民社会に対して、研究者の研究スタイルの多様化を計らなければ、学術世界全体が市民社会に対して責務を果たすことができなくなるだろう、との危惧が語られた。

会場に来場した人数は合計10名と比較的少数であったが、そのほぼ全員がそれぞれの立場から繰り返し発言する活気のある研究会となった。また保健医療社会学会は、学際的な学会であるため、「ワーク・ワーク・ライフ・バランス」に関しても、文学部の研究者と看護学部の研究者とではイメージされるものが違う、という発言もあり、学会大会のプレ企画として有意義な研究会となった。なおしばらくの間は、この研究会の資料は下記のグーグルドライブにおいて公開されているので、ご活用いただければ、幸いである。

■本研究会の資料が掲載されたグーグルドライブ（注：著作権は各著者が保持しています）

https://drive.google.com/drive/folders/1Hreq9nwdd-FG-sEfKk-tV6YmnOM_cw_X?usp=sharing

2) 関西定例研究会報告 2025年度第2回(告知)

日時: 2026年2月28日(土) 13:30~16:30

場所: 京都光華女子大学聞光館 252 教室 (阪急京都線・西京極駅より徒歩7分)

アクセス <https://www.koka.ac.jp/info/access.html>

テーマ: 「ケアの対象を考える——血友病周辺女性の経験より」

演者1: 木村美也子 (昭和女子大学)

「血友病との出会いと育児—血友病患者との関係性に着目して」

演者2: 眞浦有希 (沖縄県立看護大学)

「「血友病」と生きる子どもにわたしが伝えていること——親子のかかわりが育てるセルフケアの力」

演者3: 田淵紗也香 (京都光華女子大学)

「血友病周辺女性の体験——「姉」の事例から」

司会: 伊藤美樹子 (滋賀医科大学)

(樫田理事: 研究活動担当)

6. 看護・ケア研究部会報告・告知

1) 第2回研究例会の報告

日時: 2025年9月13日(土) 14:00~17:00

方法: オンライン

報告者: 末武友紀子 (日本赤十字看護大学看護学研究科博士後期課程)

「看護師長への昇進の実態——自らチャンスを手放す女性看護師」

本報告では、博士論文の予備調査として実施した看護師の昇進に関する研究結果を報告した。結果は、2つの施設の管理者計5名から得たインタビューデータから特に昇進における障壁や組織文化に焦点を当てて記述した。この研究が今後博士論文の本調査に進めるかどうかの審査資料となることを説明し、結果の示し方を中心に意見、感想を求めて議論した。その結果、昇進の要因を明らかにする質的研究かと思ったが実際には組織文化を描き出す研究として非常に興味深い、リッチな研究データを考察においてどのようにまとめていくかが重要である、研究の目的と方法論の整合性、データの読み解き方や分析方法をより明確にする必要がある、男性看護師が少数派でありながらも発言力を持つ現象を「生存戦略」と解釈するならば、「力を持つ男性看護師」と表現することや権力の問題に還元することの妥当性を検討する必要があるという意見があった。今回の発表を通して、結果を拡散させず考察を貫く縦串がみえるようにまとめていくこと、本調査に向けて看護師長への昇進に焦点化すること、研究参加者のリクルート方法や倫理的配慮、データの公表方法について再考すること等、本調査につながる重要な示唆を得ることができた。

2) 第3回研究例会の報告

日時：2025年12月20日(土) 14:00～17:00

方法：オンライン

報告者1：三枝七都子(杏林大学医学部)

「混在的なケア」の動態的展開——富山型デイサービスを試みる新規新規事業者のメッシュワーク

富山型デイサービス(以下、富山型)の新規事業者の語りから、約四半世紀続く富山型の活動を新規事業者がどのように意味づけ、自らの活動を展開しているのかを分析した内容を発表した。発表後の議論では、とりわけ新規事業者の語りをどのように生成過程として捉えるかという点や、「富山型っぽさ」といった曖昧な参照枠をどのように概念化するかについて、多くの示唆を得た。分析に悩んでいた語りの理解についても、別の読みの可能性や理論的な位置づけに関する助言が寄せられ、研究の射程を再確認する機会となった。研究会で頂いたこれらの視点を念頭に、今後さらに分析を深め、論文として完成させていきたい。

報告者2：岩井しおみ(聖路加国際大学・いちかわ訪問看護ステーション)

「セルフ・ネグレクト状態の高齢者からみた訪問者との関わりの経験——3事例を通して」

日本保健医療社会学会論文投稿予定であるため、投稿に向けて分析結果の提示の仕方、纏め方等、より論文内容を洗練させるために発表の機会を得た。本研究は、死亡リスクの高さが報告されているにも拘らず支援体制が不十分といえるセルフ・ネグレクトの状態にある高齢者を対象にしている。発見時点で心身状態が悪い傾向にある高齢者であるため、身体・生活状態が改善しつつある高齢者(3名)にインタビューを行い、訪問者との関わりの経験について分析を行い、結果と考察を報告した。発表後のディスカッションでは、社会学・看護学に精通した研究者の方々より様々な視点で意見をいただき、自分では気付けない点に気づく機会を得た。タイトル、目的、概念、分析内容に至るまで様々な角度で意見を得たため、投稿に向け更に内容を充実させたい。発表者自身がセルフ・ネグレクトの状態にある高齢者を支援する立場であるため、支援者としての視点が抜け出せずにいるため、その点について改めて気づくことができた。本発表に際し、多くの貴重な示唆を得たと共に、励ましもいただき心より感謝を申し上げます。

3) 第4回研究例会(公開企画)のご案内

看護・ケア部会第4回研究例会は、関東第2回定例研究会との共催です。公開企画として、対面・オンラインのハイブリッド形式で開催予定です。開催概要は以下の通りです。

日時：2026年3月14日(土) 13:30～16:30

場所：日本赤十字看護大学 601 講義室 (ハイブリッド)

テーマ：「ケアを問いなおす——『介護のドラマツルギー』をめぐって」

講演者：安立 清史 (九州大学名誉教授)

指定討論者：三井さよ (法政大学)、もう1名は依頼中

司会：坂井志織 (東京都立大学)・松繁卓哉 (追手門学院大学)・本多康生 (福岡大学)

本公開企画は、2025年5月に開催された日本保健医療社会学会第51回大会「Health and Medical Sociology in Motion: 「越境」をさぐる」および、7月のアフター企画「介護・福祉の可能性——ケアの価値を再考する」を受け、介護をテーマに議論を深めていきたい。本企画では、『介護のドラマツルギー——老いとぼけの世界』(弦書房)を刊行された安立清史さんを講演者としてお招きし、在宅老所の日々の営みを通じて、老いてゆく人とそれを見守る人々のかかわりを、「介護のドラマツルギー」という視点から報告していただく。

※参加費無料・一般参加可

研究例会参加申込フォーム：<https://forms.gle/uSKHYGpT21S3V3dj9>

4) 2026～2027年度看護・ケア部会役員選挙のご案内

看護・ケア部会の役員の任期は2年です。次年度は新役員による体制になりますので、2026年1月頃、会員の皆様に投票用紙を郵送し、次期役員選挙の投票をお願いする予定です。

皆様のご参加をお待ちしております。

(細野理事：研究活動担当)

7. 渉外・国際交流活動の告知

アジア太平洋社会学会 (APSA: Asia Pacific Sociological Association) 東京大会が、2025年11月23日(日)～25日(火)に東京において、アメリカ主権国家大学 (American University of Sovereign Nations) との共催で開催された。テーマは「災害と倫理」。世界各地で自然災害や人的災害が相次ぐ現在、災害発生時の社会の対応についての実態や倫理・社会科学研究が報告され、活発な議論がなされた。日本、タイ、フィリピン、インドネシア、ネパール、インド、バングラディシュ、ミャンマー、アメリカ、ニュージーランド、アイルランド、ウクライナ、ブラジルなどから57人が参加した。

次回のAPSAは、2026年10月30日(金)～31日(土)にフィリピン・マニラにて開催予定で、11月1日(日)にはタガイタイのエコ・ヴィレッジへのフィールドトリップも企画されている。

(細田理事：国際・渉外担当)

8. 「保健医療社会学を学べる研究者」情報の募集

本学会では、会員からの自主的な提供によるデータに基づき「保健医療社会学が学べる研究者」のリストを作成し、日本保健医療社会学会のホームページ上に掲載しております

(<https://square.umin.ac.jp/medsocio/list-researcher.html>)。このリストに掲載をご希望の方は、上記ページにある「掲載情報」(Excel ファイル)にご記入の上、学会事務局までメールでお送りください。常勤であることや研究室を持っていることは、情報を掲載する条件ではないので、非常勤教員の方もどうぞ情報をお寄せください。掲載内容は毎年度末に掲載継続・更新のご要望をお尋ねし、掲載継続の希望が示されたもの以外は年度末で削除します。なお、すでに掲載をされている方で、情報の変更や削除を希望される方は、事務局までお知らせください。

(天田理事：広報担当)

9. シンポジウム情報等のメール配信・学会ホームページ掲載希望について

会員や学会外部機関から事務局へお寄せいただく学会外部のシンポジウム等の情報につきましては、過去の慣例・運用を踏まえ、会員に関連する情報を選択し、ニューズレター配信メールやホームページにて記載させていただいております。ただし、メール配信やホームページ更新に対する委託料が発生するため、できる限りまとめて行う関係上、ご連絡が開催または申込締切まで1ヵ月を切る場合には配信・掲載が間に合わない場合があります。あしからずご了承ください。

(天田理事：広報担当)

10. 会員著作情報のメーリングリストでの配信（試行）について

会員の著作情報を月に1回程度、会員一斉メールにて配信しております。原則としましては、配信時期から概ね1年以内程度に発行された会員執筆（共著含む）・編集の新刊を対象に、著者・编者からの希望を広報担当理事で取りまとめて配信いたします。配信したい著作情報がある会員は下記のフォーム（メーリングリストでフォームのリンクを配信予定）に月末までに情報を記載して送信してください。どうぞよろしく願いいたします。

<https://forms.gle/WqqisutiEiadqALG7>

(天田理事：広報担当)

11. 編集後記

ニューズレターNo.133では、第52回大会の続報についてお届けしました。第52回大会長からの大会テーマの詳細と、それに基づく大会長講演、教育講演、シンポジウム、大会開催校企画RTDの説明のほか、一般演題やRTD申込情報も掲載されています。情報はホームページにも順次反映してまいります。その他、大会連動企画を含めた定例研究会開催情報も掲載しておりますので積極的にご参加ください。

日本保健医療社会学会ニューズレターは、No.92からPDFファイルのメールマガジン形式で配信しています。また学会ホームページ (<https://square.umin.ac.jp/medsocio/>) でも公開しています。

(天田理事：広報担当)

発行：日本保健医療社会学会 編集：広報担当（天田城介）
学会事務局：東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
jshms-office@as.bunken.co.jp TEL：03-6824-9375